

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第39号

2020(令和2)年3月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

ライブラリー立ち上げの経緯 — 4種226部 —

H. A. M. A. 木綿庵が所蔵している綿, 織, 染関連の蔵書は、3月26日現在で4種226冊になります。書籍78冊、図録47冊、論文71本、資料30冊です。その一覧は当庵の公式HP内にある「綿のライブラリー」で閲覧が可能です。「綿のライブラリー」開設の思いは本誌第37号に記した通りです。今回はライブラリー立ち上げの経緯について触れたいと思います。

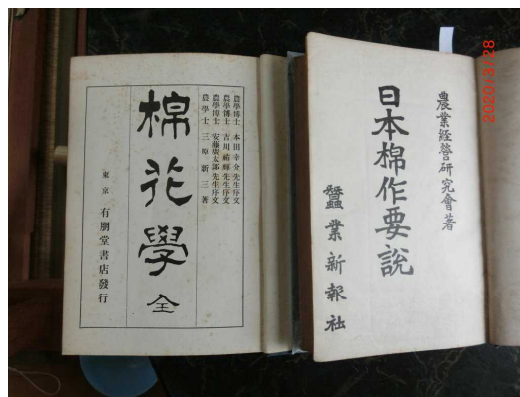
2008年にH. A. M. A. 木綿庵を設立し、綿の栽培に取り組み始めた当初は、自分の手で綿花を収穫することができるということだけで感動し、満足していたものでした。ところが、綿畑を見学に来られた方から品種や歴史について尋ねられると、途端に困ってしまいました。「木綿の普及が江戸時代以降なら、それ以前の日本人は何を着て暮らしていたのですか？」という極めて素朴な疑問にさえ、明確には答えることが出来ませんでした。

とにかく、「自分は綿についてまだ何も知らない」ということを思い知らされ、それから本を読んで調べるようになりました。その過程でおもしろいことに気づきました。それは、「どの本を読んでも、なんとなくはわかるのだけれど、決定的にはわからない」ということです。品種についても、歴史についてもそれは同じでした。そこで、まず1冊の書物を読み終えると、その書物の巻末に掲げられている参考文献にもあたることにしました。論文も同じです。「註」を参考に引用文献に可能な限り目を通したくなってきました。

ここで多いに役立ったのが、WEBサイトの「日本の古本屋」です。全国にある2,000軒以上の古本屋が登録し、600万冊以上の在庫の中から、求める書籍を瞬時に選び出し、価格の低い物から紹介してくれるわけですからこれほど便利なものはありません。しかも、綿関連の書籍は人気がないためか、その古書の多くは廉価です。わざわざ図書館を訪ねて複写するより、古書を買った方が安上がりなのです。論文については、CiNii(NII 学術情報ナビゲータ・サイニィ)や J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)が便利です。CiNii は、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報を検索できるデータベース・サービス。J-STAGE は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームです。国立国会図書館の遠隔複写サービスも役に立ちます。最近学術雑誌の電子化が進み、簡単にダウンロードできる論文も多くあります。

加えて、その時々に必要な情報や各種資料を提供して下さる方にも恵まれ、気がつけばこれほどの量になっていました。

最近になって痛感するようになったのは、「情報は、必要な時に必要な情報を引き出すことができ初めて財産になる」ということです。「綿のライブラリー」として公開することによって、蔵書の整理を図り、必要な情報をすぐに引き出せるようにしたいと考えたのが、ライブラリーを立ち上げた経緯です。



大正年間発行の書籍(整理番号A002, A001)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年2月24日～令和3年2月23日)

北海道1、栃木県1、東京都1、神奈川県1、長野県1、京都府2、大阪府1、奈良県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年1月24日～令和2年2月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件12名



〈蔵書解説 No.1 農業経営研究会『日本棉作要説』〉 — Library 整理番号A001 —

大正8年(1919)4月30日発行の初版本で、蔵書中もっとも発行年の古い書物です。内容は全5章立て、515頁。第1章総説(1-23)、第2章草綿栽培の起原(24-203)、第3章棉の種類(204-241)、第4章棉栽培総論(242-446)、第5章備考(447-515)。発行の趣旨は巻頭の「日本棉作要説発行の要旨」に詳しく記されています。要約すれば、国産綿花栽培の復活こそ国家の急務、とするところにあります。明治時代中期以降、明治政府が国産綿花に見切りをつけて外国産綿花の輸入に舵を切ったのは、一部商人の策略に政府が惑わされたからであり、政策の「誤り」であったと指摘します。その上で、綿花の自給こそが国運を左右するとして、国内での綿花栽培を奨励します。

本書は、機械紡績に耐える国産綿花の栽培方法を具体的に詳述したもので、近代版『綿圃要務』ともいえる内容になっています。現代においても非常に有用な一書であると言えます。

《綿の栽培記録 2020》— 令和2年度版 その3—

昨年同様、今年も2月から3月中旬にかけて定期的にほんとうによく雨が降りました。が、3月半ばよりようやく降雨が途絶え、3月21日にトラクターを入れることが出来、5月の種蒔きにそなえ1号、5号、6号、7号の綿畝すべてに石灰をすき込みました。使用した石灰は昨年と同じ苦土石灰。ラベルには「肥料の種類：炭酸カルシウム肥料。肥料の名称：粒状15炭酸苦土石灰。保証成分量(%)はアルカリ分55.0%、可溶性苦土15.0%」と記されていました。

なお、6号畑で鹿の足跡を多数発見しました。隣の畑では麦の新葉が食い荒らされたそうです。ちなみに8号畑はまだ畝立て作業の途中です。写真左、中:1号畑。右:使用した苦土石灰。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成29年, 2017産。丹羽正行氏による打ち綿)
2月24日～3月23日 (作業実日数16日) 糸の総量104.3 g (27.8匁) 総時間251分 (4時間11分)
※1分間≒0.416 g 1時間≒25.0 g (6.7匁)

【研修等の記録】

- 令和2年3月22日「画廊ぶらんしゅ・宇佐美けい作品展」(大阪府池田市) 訪問、鑑賞。

※2月27日午後に行われた安倍首相からの「全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について3月2日から春休みまで、臨時休業を行うよう」との要請発表以降、新型コロナウィルスの感染拡大を防止するため各種イベント、研修会や講演会、展覧会等の開催を自粛する動きが急速に広まりました。図書館、博物館、美術館等の閉館も相次ぎ、教育現場、経済活動にとどまらず文化活動を含め国民生活全般に大きな影響が出ています。

【下段の写真は左:5号畑。中:6号畑に残る鹿の足跡。右:6号畑の藍畝の脇で見つけたこぼれ種の発芽の様子】

